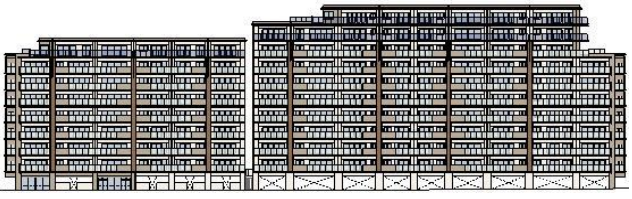


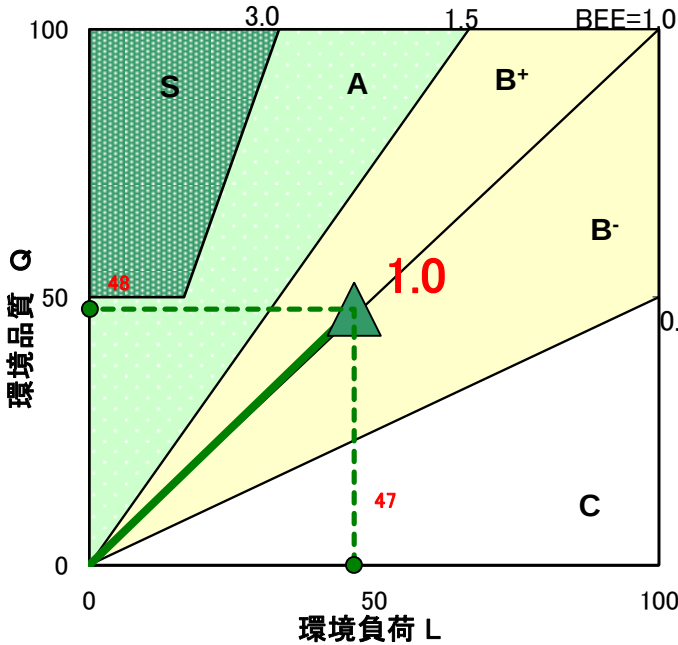
CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観	
建物名称	(仮称)MJR大江	階数		
建設地	熊本県熊本市中央区大江3丁目6	構造		
用途地域	第2種住居地域、準防火地域	平均居住人員		
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間		
建物用途	工場, 集合住宅,	評価の段階		
竣工年	2015年8月 予定	評価の実施日		
敷地面積	7,067 m ²	作成者		
建築面積	2,431 m ²	確認日	2014年1月20日	
延床面積	16,891 m ²	確認者		
			萬家 斎	

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)





■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)



BEE = 1.0

■BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	★★★★★
30%超60%以下	★★★★★
60%超80%以下	★★★★
80%超100%以下	★★★
100%超	★

排出率

79%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



72

評価点

75.3

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

74.2

【重点事項4】 循環型社会の実現

77.5

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

67.5

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

■ 熊本県重点評価基準

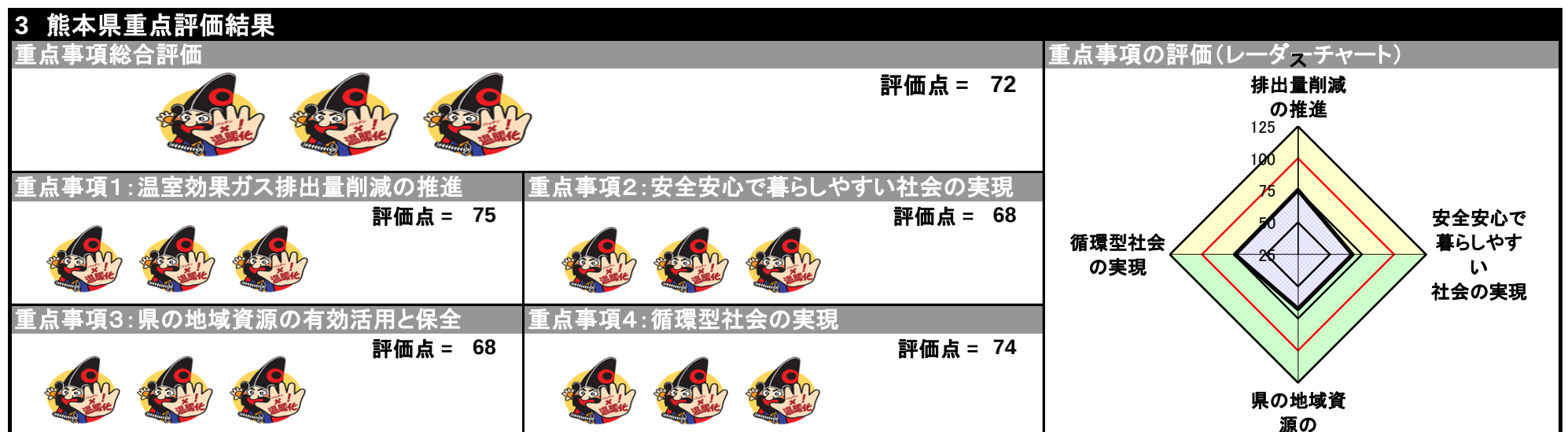
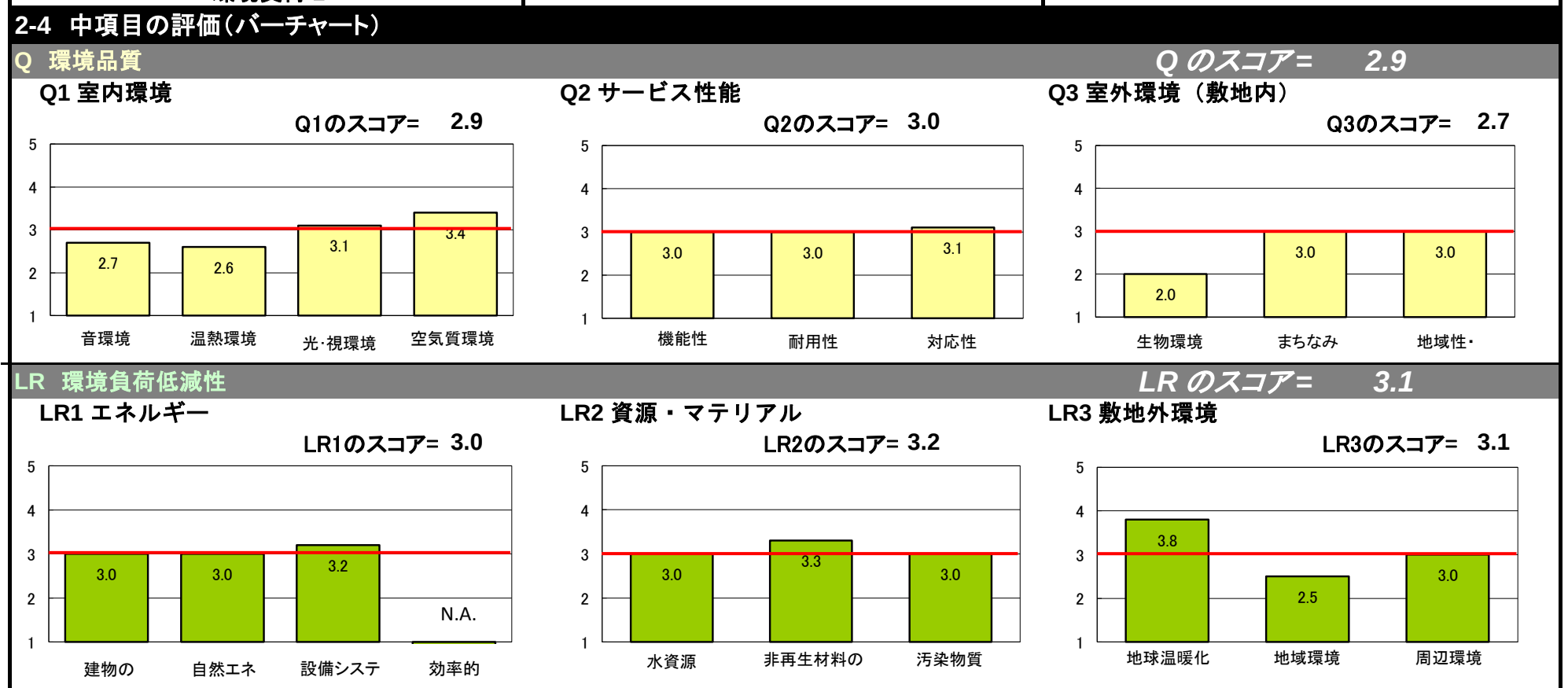
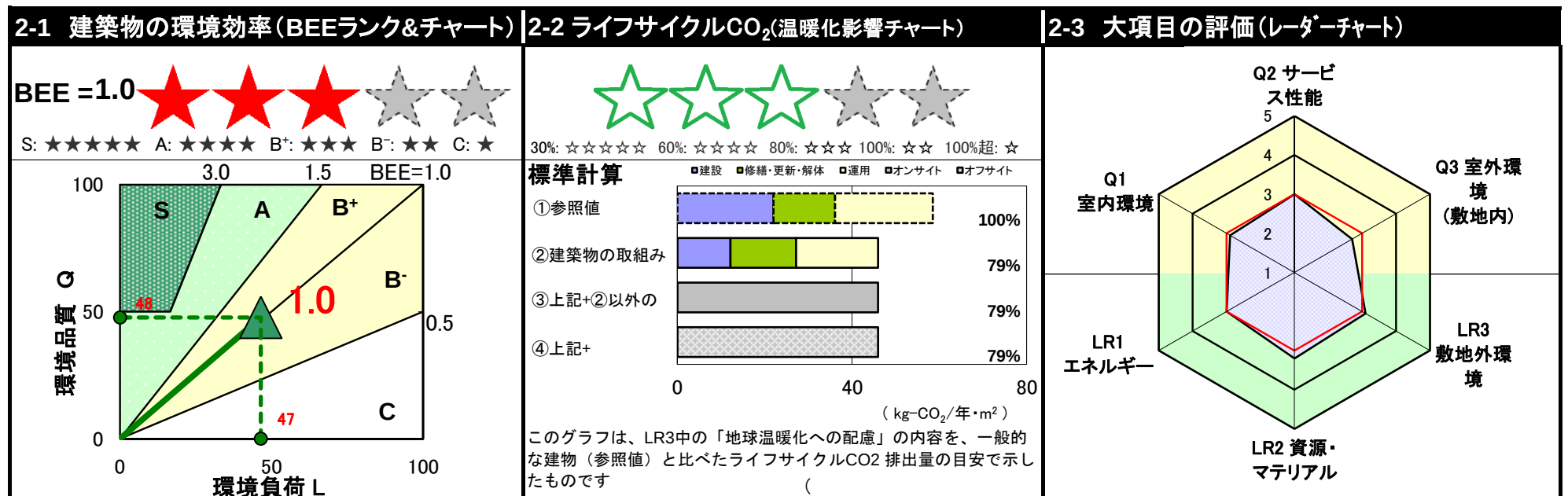
判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE® 熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)MJR大江	階数	地上11F
建設地	熊本県熊本市中央区大江3丁目6-1	構造	RC造
用途地域	第2種住居地域、準防火地域	平均居住人員	577 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場, 集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年8月 予定	評価の実施日	2014年1月10日
敷地面積	7,067 m ²	作成者	萬家 斎
建築面積	2,431 m ²	確認日	2014年1月20日
延床面積	16,891 m ²	確認者	萬家 斎



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
(仮称)MJR大江

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版
■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート		実施設計段階									
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体			
				評価点	重み係数	評価点	重み係数				
Q 建築物の環境品質								2.9			
Q1 室内環境					0.39			2.9			
1 音環境				3.0	0.15	2.6	1.00	2.7			
1.1 騒音				3.0	0.50	3.0	0.50				
1	室内騒音レベル			3.0	1.00	3.0	0.50				
2	設備騒音対策			-	-	3.0	0.50				
1.2 遮音				3.0	0.50	2.3	0.50				
1	開口部遮音性能			3.0	1.00	3.0	0.30				
2	界壁遮音性能			-	-	2.0	0.30				
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	2.0	0.20				
4	界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	2.0	0.20				
1.3 吸音				-	-	-	-				
2 温熱環境						1.1	0.35		3.0	1.00	2.6
2.1 室温制御				1.3	0.50	3.0	1.00				
1	室温			1.0	0.62	-	-				
2	負荷変動・追従制御性			-	-	-	-				
3	外皮性能			2.0	0.38	3.0	1.00				
4	ゾーン別制御性			-	-	-	-				
5	温度・湿度制御			-	-	-	-				
6	個別制御			-	-	-	-				
7	時間外空調に対する配慮			-	-	-	-				
8	監視システム			-	-	-	-				
2.2 湿度制御				1.0	0.20	-	-				
2.3 空調方式				1.0	0.30	-	-				
3 光・視環境						2.5	0.25		3.3	1.00	3.1
3.1 昼光利用						3.0	0.30		3.6	0.50	
1	昼光率					3.0	0.60		3.0	0.50	
2	方位別開口					-	-		5.0	0.30	
3	昼光利用設備	3.0	0.40			3.0	0.20				
3.2 グレア対策		3.0	0.30			3.0	0.50				
1	照明器具のグレア	-	-			-	-				
2	昼光制御	3.0	1.00			3.0	1.00				
3	映り込み対策	-	-			-	-				
3.3 照度		3.0	0.15			-	-				
3.4 照明制御		1.0	0.25			-	-				
4 空気質環境				3.6	0.25	3.3	1.00	3.4			
4.1 発生源対策		F★★★★の積極的な採用		4.0	0.60	4.0	0.63				
1	化学汚染物質			4.0	1.00	4.0	1.00				
2	アスベスト対策			-	-	-	-				
3	ダニ・カビ等			-	-	-	-				
4	レジオネラ対策			-	-	-	-				
4.2 換気				3.0	0.40	2.3	0.38				
1	換気量			3.0	0.50	3.0	0.33				
2	自然換気性能			-	-	1.0	0.33				
3	取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	3.0	0.33				
4	給気計画			-	-	-	-				
4.3 運用管理				-	-	-	-				
1	CO ₂ の監視			-	-	-	-				
2	喫煙の制御			-	-	-	-				
Q2 サービス性能						-	0.30		-	-	3.0
1 機能性						3.0	0.40		3.0	1.00	3.0
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	3.0	0.60				
1	広さ・収納性			-	-	-	-				
2	高度情報通信設備対応			-	-	3.0	1.00				
3	バリアフリー計画			3.0	1.00	-	-				
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	3.0	0.40				
1	広さ感・景観			-	-	3.0	0.50				
2	リフレッシュスペース			-	-	-	-				
3	内装計画			3.0	1.00	3.0	0.50				
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-				
1	維持管理に配慮した設計			3.0	0.50	-	-				
2	維持管理用機能の確保	3.0	0.50	-	-						
3	衛生管理業務	-	-	-	-						
2 耐用性・信頼性				3.0	0.31	-	-	3.0			
2.1 耐震・免震		品確法における、劣化の軽減に関する事を等級2としている。		3.0	0.48	-	-				
1	耐震性			3.0	0.80	-	-				
2	免震・制振性能			3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数				2.9	0.33	-	-				
1	躯体材料の耐用年数			4.0	0.23	-	-				
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔			2.0	0.23	-	-				
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔			2.0	0.09	-	-				
4	空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.08	-	-				
5	空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	0.15	-	-				
6	主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.23	-	-				

	2.3 適切な更新			-	-	-	-	
	2.4 信頼性			3.2	0.19	-	-	
	1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備	地上設置とすることで、浸水の危険性なし	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.0	0.29	3.2	1.00	3.1
	3.1 空間のゆとり			-	-	3.4	0.50	
	1	階高のゆとり		-	-	5.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ		-	-	1.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.31	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出				2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.0
1 建物の熱負荷抑制				3.0	0.37	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.21	-	-	3.0
	2.1 自然エネルギーの直接利用			3.0	0.50	-	-	
	2.2 自然エネルギーの変換利用			3.0	0.50	-	-	
	3 設備システムの高効率化		高効率給湯器の採用	3.2	0.41	-	-	
	集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)			5.0		-	-	
	集合住宅の評価			3.1		-	-	
	4 効率的運用				-	-	-	
	4.1 モニタリング			-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
	LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	
1 水資源保護				3.0	0.15	-	-	3.0
	1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.63	-	-	3.3
	2.1 材料使用量の削減			2.0	0.07	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
	2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.05	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み		解体時に、躯体と仕上材が容易に分別可能	5.0	0.24	-	-	
	3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22	-	
	3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-	
	1	消火剤		-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
	3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
	LR3 敷地外環境				-	0.30	-	
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出率が一般の建物と同等	3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮				2.5	0.33	-	-	2.5
	2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.3	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
	3	交通負荷抑制	適切な駐車台数の確保と利用者にとって使いやすいよう配慮して	5.0	0.33	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
	1	騒音		3.0	1.00	-	-	
	2	振動		-	-	-	-	
	3	悪臭		-	-	-	-	
	3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
	3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

省エネルギーに配慮し、共用部の照明はLED器具にて計画した。マンション居住者の快適さや機能上の充実を図りつつ、周辺環境への配慮として、街路側に豊かな植栽帯を配置し景観を演出したい。また、駐車場のアスファルト舗装は透水性舗装を採用することで、大雨時の雨水の流出を低減し、地域防災への配慮とした。

Q1 室内環境

室内環境の快適性を高める位置に開口を設け、長い時間太陽光のみで生活ができるよう配慮した。また、室内を構成する材料については積極的にF☆☆☆☆材料を使用し、室内環境の向上を図っている。

Q2 サービス性能

外壁をタイル貼りとし、更新期間の長い材料を採用している。また、設備配管を合理的に計画することで、更新しやすい計画としている。

Q3 室外環境（敷地内）

効果的な位置に必要な限り緑化を図り、住民だけではなく近隣住民にも憩いとなるよう計画している。

LR1 エネルギー

LED照明を採用することで、省エネルギー性能に配慮した計画としている。また、可能な位置のバルコニーは奥行きのある計画とし、夏期の日射遮蔽が効率的となるよう配慮している。

LR2 資源・マテリアル

コンクリート躯体と仕上げ材を分別しやすい構成とし、リサイクル資源の有効活用に配慮している。

LR3 敷地外環境

敷地緑化を行い周辺住民への環境向上に配慮した。ゴミ置き場をコンクリートでつくり施錠をきちんと行うことで、悪臭が漏れないよう配慮するとともに、不法投棄の防止を目指した。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)MJR大江

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		72.0
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				75.3	0.40	30.12
Q1-2.1.3	外皮性能	2.0	0.15			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.01			
Q1-3.2.2	昼光制御	3.0	0.01			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	3.0	0.14			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.2	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				67.5	0.20	13.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				67.5	0.20	13.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				74.2	0.20	14.84
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	2.9	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数